

第 4 期東村山市障害福祉計画の状況（平成 27 年度報告）

I 成果目標と進捗状況

A. 施設入所者の地域生活への移行

計画目標 (抜粋)	平成 29 年度末までに施設から地域移行する方の目標値です。				
取組状況	取り組んでいる。				
(理由)	地域移行の受け皿となるグループホーム等について、整備方針等の検討を行うとともに、必要性の高い世帯の抽出・リスト化を行った。				
地域生活 移行者数	H25 年度 1 人	H27 年度 1 人	H28 年度 人	H29 年度 人	H29 年度目標 3 人
国の基本指針	平成 25 年末時点の施設入所者数（当市では 99 人）の 12%以上が地域生活へ移行する。これに合わせて、施設入所者の削減においては、平成 25 年度末時点の施設入所者の 4%を削減する。				
検 証	平成 27 年度の地域移行者数は 1 人であった。施設入所者のうち、グループホームで生活できる方の移行がある程度進んだことが要因の一つと考えられる。引き続き施設と連携し、地域で生活するための様々な受け皿を確保していく必要がある。 また、障害のある方にとって入所施設と地域での生活のどちらが望ましいのか適切に把握したうえで、地域移行を促進していく。				

B. 地域生活支援拠点数

計画目標 (抜粋)	本市においては、今後実施予定である国のモデル事業の取り組みや都の動向を注視しながら、設置の検討をします。		
取組状況	取り組んでいる。		
(理由)	国のモデル事業の取り組みや都の動向に注視した。		
項目	H27 年度	H28 年度	H29 年度
地域生活支援拠 点数	検討	検討	検討
実績	検討		
国の基本指針	平成 29 年度末までに市区町村または圏域に少なくとも一つの拠点等を整備する。		
検 証	平成 27 年度に国は、モデル事業を実施したため、取り組み内容や都の動向を注視した。 今後についても国都の動向に注視しながら、国のモデル事業実施市の視察を行い、あり方の検討を行いたい。		

C. 福祉施設から一般就労への移行

計画目標 (抜粋)	<p>【福祉施設からの一般就労移行者数】 平成 24 年度の 2 倍以上の移行をめざします。</p> <p>【東村山市障害者就労支援室を利用した一般就労者数】 これまでの実績及び実情を踏まえ、平成 24 年度の水準の維持を目指します。</p>				
取組状況 (理由)	<p>取り組んでいる。</p> <p>東村山障害者就労支援室の開設後、障害所管、関係各機関との連携強化を図り、障害のある方の就労支援を展開している。</p>				
一般就労移行者数(実績)	H24 年度 19 人	H27 年度 15 人	H28 年度 人	H29 年度 人	H29 年度目標 38 人
東村山市 就労支援室	H24 年度 35 人	H27 年度 53 人	H28 年度 人	H29 年度 人	H29 年度目標 35 人
国の基本指針	<p>平成 24 年度に福祉施設から一般就労に移行した実績（東村山市においては 19 人）の 2 倍以上を基本とする。</p>				
検 証	<p>平成 27 年度において就労移行支援と就労継続支援のサービスを利用し、一般就労に結びついた利用者は 15 人であった。</p> <p>就労支援室の活用により就労に結びついている方は平成 27 年度 53 人であった。</p> <p>今後も就労先の障害理解の促進などによる職場開拓や職場定着支援（ジョブコーチ）、さらには離職時へのフォロー、障害のある人が就労継続できる体制を整備・強化し、ネットワークを活用した障害者就労支援事業の展開を図る。</p>				

D. 就労移行支援事業の利用者数

計画目標 (抜粋)	<p>本市における就労移行支援事業のサービス提供が適している施設の現状を鑑み、平成 26 年度における利用者数の 3 割以上の利用者増を見込みます。</p>				
取組状況 (理由)	<p>取り組んでいる。</p> <p>障害所管、就労支援室の連携により、就労移行支援が適している方の把握に努め、サービスの支給決定を行っている。</p>				
就労移行支援事業利用者数	H26 年度 41 人	H27 年度 27 人	H28 年度 人	H29 年度 人	H29 年度目標値 45 人
国の基本指針	<p>平成 25 年度の就労移行支援事業の利用者数の 6 割以上増加することを目指します。</p>				
検 証	<p>平成 27 年度において就労移行支援のサービス利用者は 27 人であり、その内、就労に結びついた方は 9 人であった。</p> <p>就労移行支援事業に適した障害のある方を把握するとともに、適切にサービスを提供していく。</p>				

就労移行支援事業所ごとの就労移行率

計画目標 (抜粋)	これまでの実績及び実情を踏まえ、平成 29 年度の一般就労移行率が 3 割以上の事業所の割合を 30% に設定しました。
取組状況 (理由)	取り組んでいる。 障害所管、就労支援室にてサービスが適した方や提供事業所の把握に努めている。
国の基本指針 (抜粋)	就労移行率が 3 割以上の事業所を、事業所全体の 5 割以上とすることを目指す。
検 証	就労移行支援事業に適した障害のある方を把握し、一般就労が可能な方については、就労移行支援事業所と連携し、一般就労につなげました。

II 障害福祉サービス等の見込量と実績

1. 障害者総合支援法に基づくサービス等

A. 訪問系サービス

①見込量と実績（1 か月あたりの利用時間、実利用者数）

	事項	H25 年度	H26 年度	H27 年度
居宅介護 重度訪問介護	見込量	12,800	13,200	13,928
	実績	サービス量	13,342	13,584
利用者数		256	306	383
同行援護 行動援護 重度障害者等包括支援				

②検証

障害者の地域生活を支える根幹をなすともいえる訪問系サービスであるが、平成 27 年度において、市の人口、障害手帳所持者ともに横ばい傾向のなか、サービス量については、前年比で増となった。主の障害状況だけでなく、介護者の高齢化等に伴う障害福祉サービスの支給決定時間数の増加が挙げられる。引き続き障害福祉サービスが必要な方に適切に提供していく。

B. 日中活動系サービス、東京都認定心身障害者（児）短期入所

①見込量と実績（1 か月あたりの延べ利用者数）

	H25 年度		H26 年度		H27 年度	
	見込量	実績	見込量	実績	見込量	実績
生活介護	173	226	175	232	243	248
自立訓練(機能訓練)	7	1	8	3	3	1
自立訓練(生活訓練)	13	9	14	9	10	11
就労移行支援	34	39	37	35	41	27
就労継続支援(A型)	11	8	12	13	11	13
就労継続支援(B型)	510	497	520	521	540	526
療養介護	30	28	30	30	29	32

短期入所（福祉型）	345	333	355	335	261	375
短期入所（医療型）	-	-	-	22	147	20
東京都認定心身障害者（児）短期入所	35	41	35	31	35	32

②検証

当市においては、就労継続支援B型のサービス内容が適している施設が多いことから、これまで増してきたが、平成27年度においては微増となった。

就労継続支援A型については、障害のある方及びその保護者が企業就労等、就労支援を希望される方が増えたため、平成26年度は増したが、平成27年度は横ばいとなった。

短期入所については、サービス量は見込を下回ったが、昨今の傾向として、介護者の疾病による緊急的な長期利用者が増えている状況である。単身生活が困難な障害のある方の障害特性を踏まえ、施設入所もしくはグループホーム等に入所することが望ましいが、施設の空き状況等から入所に至らないことが要因の一つである。また、東京都認定心身障害者（児）短期入所事業においても、同様に見込を下回った。

C. 居住系サービス

①見込量と実績（1か月あたりの実利用者数）

	H25年度		H26年度		H27年度	
	見込量	実績	見込量	実績	見込量	実績
グループホーム	80	79	80	87	90	92
施設入所支援	92	99	94	103	101	105

②検証

市外のグループホームの増加、入所により、実際の量が見込み量を上回った。これからも、引き続きグループホーム等の利用が適した方のニーズを把握し、適切な支給決定を行う。

施設入所については、障害特性や家族状況等から施設入所が適した方に対して、サービス等利用計画を踏まえ、支給決定を行った。今後も関係機関等と連携し、適切な支給決定を行う。

③整備見込と実績

	H25年度		H26年度		H27年度	
	定員数		定員数		定員数	
	見込	実績	見込	実績	見込	実績
グループホーム	80	76	80	78	83	78

④検証

グループホームの利用については、ニーズの適切な把握に努め、グループホームの利用が適した方の支援に向けて、今後は既存施設も活用しながら、施設整備を進めていく。

D. 相談支援

ア. 計画相談支援

①見込量と実績（1か月あたりの実利用者数）

	H25 年度		H26 年度		H27 年度	
	見込量	実績	見込量	実績	見込量	実績
計画相談支援（サービス等利用計画作成）	9	24	59	67	108	94

②検証

障害福祉サービスを適切に利用できるよう、利用者の状況を勘案したサービス等利用計画の作成を進めている。市内の特定相談支援事業者も増え、サービス等利用計画の作成件数は、年々増加している。

サービス等利用計画については、障害のある方が自立した生活を送るために必要な計画であることから、引き続き適正な計画作成が進むよう努める。

イ. 地域相談支援

①見込量と実績（1か月あたりの実利用者数）

	H25 年度		H26 年度		H27 年度	
	見込量	実績	見込量	実績	見込量	実績
地域移行支援	3	1	3	1	3	0
地域定着支援	3	0	3	0	3	0

②検証

地域移行支援は、施設や病院に長期入所、入院等していた人が地域生活に移行するために、住居の確保や新生活での準備等について支援を行う事業である。地域定着支援は、居家で一人暮らしをしている人等に対して、夜間等も含む緊急時における連絡、相談等の支援を行う事業である。

平成 27 年度においては、地域移行支援及び地域定着支援としての実利用者はともに 0 人であったが、一般相談支援事業所では、通常の相談業務の中で類似した支援を行っており、今後はサービス提供事業所、施設、病院等の地域関係機関と連携を図りながら、本サービスを積極的に活用し、長期入所・入院者等の地域生活への移行を進めていく。

2. 児童福祉法に基づくサービス等の見込量

A. 障害児通所支援

①見込量と実績（1か月あたりの延べ利用者数）

	H25 年度		H26 年度		H27 年度	
	見込量	実績	見込量	実績	見込量	実績
児童発達支援	-	493	-	490	552	569
医療型児童発達支援	-	0	-	0	0	0
放課後等デイサービス	-	723	-	950	959	1226
保育所等訪問支援	-	1	-	1	2	1

②検証

療育の観点から集団指導及び個別療育を行う必要があると認められる未就学児に対して訓練等を行う児童発達支援については、平成 27 年度は市内及び市外事業所の増加等もあり、利用者は増加している。放課後等デイサービスについても、市内外事業所の増加等により、平成 26 年度、平成 27 年度と利用者数が大幅に増加している。

B. 障害児相談支援

①見込量と実績（1 か月あたりの実利用者数）

	H25 年度		H26 年度		H27 年度	
	見込量	実績	見込量	実績	見込量	実績
障害児相談支援	-	0	-	3	13	12

②検証

障害児通所支援及び障害福祉サービスを利用する障害児に対して、サービス等利用計画を作成する障害児相談支援については、平成 27 年度は利用者数が増加している。障害児通所支援等の利用者数も増加しており、引き続き、サービス等利用計画の作成を進めていく。

3. 地域生活支援事業見込量

A. 相談支援事業

①見込量と実績（実施箇所数）

	H25 年度		H26 年度		H27 年度	
	見込量	実績	見込量	実績	見込量	実績
障害者相談支援事業	2	2	2	2	2	2

②検証

現在の相談支援事業者において、障害のある方からの相談に応じ、必要な情報の提供及び助言等を行っていく。

なお、地域の相談支援の拠点として、総合的な相談業務を行う「基幹相談支援センター」は、各障害の総合相談、虐待防止・相談業務、困難事例への対応、障害者自立支援協議会との連携など業務が多岐に渡るため、既存の相談支援事業所のあり方も踏まえ、引き続き今後の検討課題としたい。

B. 地域活動支援センター

①見込量と実績

	H25 年度		H26 年度		H27 年度	
	見込量	実績	見込量	実績	見込量	実績
実施箇所数（I 型）	1	1	1	1	1	1
利用者数/年	100	112	100	105	100	105

②検証

平成 26 年度に引き続き 1 ヶ所で実施。引き続き、利用者は見込み量を上回り、創作的

活動、生産活動、社会との交流の促進等の事業を行う地域活動支援センター I 型事業が市民に浸透している。

C. 相談支援機能強化事業

①見込量と実績（実施の有無）

	H27 年度		H28 年度		H29 年度	
	見込量	実績	見込量	実績	見込量	実績
相談支援機能強化事業	実施	実施	実施		実施	

②検証

現在 2 ヶ所で行っている相談支援事業については、精神保健福祉士等の専門的職員を配置し、強化事業として機能を果している。今後も困難ケース等への対応や、関係機関・施設等へ専門的な指導や助言を行えるように実施していく。

D. 住宅入居等支援事業

①見込量と実績（取組み状況）

	H27 年度		H28 年度		H29 年度	
	見込量	実績	見込量	実績	見込量	実績
住宅入居等支援事業	検討	検討	検討		検討	

②検証

地域生活支援拠点等の検討結果を踏まえ、今後の検討課題としたい。

E. 成年後見制度利用支援事業

①見込量と実績（実施の有無）

	H25 年度		H26 年度		H27 年度	
	見込量	実績	見込量	実績	見込量	実績
成年後見制度利用支援事業	1	1	2	1	2	0

②検証

地域で安心して暮らすため、成年後見制度の利用が望ましい障害者に対し、制度申し立てに対する経費や後見人等の報酬を助成し、利用の支援を図るものである。

社会福祉協議会にて、成年後見制度推進事業と福祉サービス総合支援事業（地域福祉権利事業を含む）が実施されており、相談窓口と連携を図り支援を進めている。

F. 意思疎通支援事業及び手話奉仕員養成研修事業

①見込量と実績（1か月あたりの延べ利用者数）

	H25年度		H26年度		H27年度	
	見込量	実績	見込量	実績	見込量	実績
手話通訳者派遣事業	30	27	31	41	32	41
要約筆記者派遣事業	14	5	16	6	16	6

	H25年度		H26年度		H27年度	
	見込量	実績	見込量	実績	見込量	実績
奉仕員養成研修事業 （通訳養成クラス修了者数）	10	8	10	4	8	5

②検証

平成27年度の利用者数は、前年度に対し横ばいとなった。手話奉仕員養成に関しては、研修受講者の確保に向け、平成27年12月1日号市報において、市内の手話通訳・要約筆記団体・サークルを紹介するとともに、聴覚に障害のある方への配慮・支援を広く呼びかけた。今後も、より多くの方がサービスを利用できるよう制度の理解促進に努めたい。

G. 日常生活用具給付等事業

①見込量と実績（年間の給付等件数）

	H25年度		H26年度		H27年度	
	見込量	実績	見込量	実績	見込量	実績
介護訓練支援用具	30	13	30	9	17	10
自立生活支援用具	30	24	30	27	31	25
在宅療養等支援用具	25	6	25	20	25	14
情報・意思疎通支援用具	30	25	30	25	45	24
排泄管理支援用具	300	279	300	286	331	279
住宅改修費	12	2	12	6	6	5

※ 排泄管理支援用具については、年間給付実人数。

②検証

平成27年度においても、排泄管理支援用具が一番多く支給されている。背景として高齢化に伴う疾病が挙げられる。引き続き必要な方々に適切なサービス提供ができるよう努めたい。

平成27年度においては、引き続き、国都の動向に注視しながら、日常生活用具の品目について検討を行った。

H. 移動支援事業

①見込量と実績（1か月あたりの実利用者数・利用時間）

	H25 年度				H26 年度			
	利用者数		利用時間		利用者数		利用時間	
	見込	実績	見込	実績	見込	実績	見込	実績
知的・精神	92	123	630	759	146	130	640	831
肢体不自由	6	6	68	82	6	6	68	74
視覚	25	18	200	227	25	19	200	240
合計	121	147	898	1,068	154	155	846	1,077
	H27 年度							
	利用者数		利用時間					
	見込	実績	見込	実績				
知的・精神	123	130	759	840				
肢体不自由	6	5	82	70				
視覚	16	17	198	229				
合計	145	152	1039	1,139				

②検証

他の障害福祉サービス等の利用により必要な支援を補う方もおり、利用実績は微増となっている。

課題として、放課後の時間帯や週末、祝日に利用が集中し、ガイドヘルパーが不足する状況があったため、試行的に視覚障害のある方の移動の支援等を行う「同行援護従業者養成研修」と知的障害のある方の移動の支援を行う「知的障害者移動支援従業者養成研修」を計4回実施し、市内のガイドヘルパー従業者数が徐々にではあるが、増えてきている。

I. その他の事業

ア. 訪問入浴サービス事業

①見込量と実績（1か月あたりの利用回数）

	H25 年度		H26 年度		H27 年度	
	見込量	実績	見込量	実績	見込量	実績
訪問入浴事業	39	28	39	28	27	24

②検証

特に大幅な利用者の増減はない。今後も引き続き業者への指導を徹底し、適切なサービスの提供に努めていく。

イ. 更生訓練費給付事業

①見込量と実績（1か月あたりの実利用者数）

更生給付事業	H25年度		H26年度		H27年度	
	見込量	実際の量	見込量	実際の量	見込量	実際の量
更生訓練費給付事業	47	33	47	32	33	29

②検証

就労移行支援事業、自立訓練事業の利用者に更生訓練費を支給する事業で、平成 27 年度も横ばいとなっている。

今後も制度に沿った適切な支給を行う。

ウ. 日中一時支援事業

①見込量と実績（1か月あたりの実利用者数）

	H25年度		H26年度		H27年度	
	見込量	実際の量	見込量	実際の量	見込量	実際の量
日中一時支援事業	20	22	21	22	21	20

②検証

障害のある方が緊急時等において、支援を必要とする時に利用できるよう、市内外の障害福祉サービス事業所とも連携しながら、推進を図ります。

エ. 生活サポート事業

①見込量と実績（1か月あたりの実利用人数）

	H25年度		H26年度		H27年度	
	見込量	実際の量	見込量	実際の量	見込量	実際の量
生活サポート事業	5	0	5	0	1	0

②検証

生活サポート事業は、障害支援区分の認定結果が非該当となった方や居宅介護等が不支給又は却下となった方が対象のホームヘルプサービス等を補完する事業である。現在まではサービスが必要な方には障害支援区分が出ており、居宅介護等の利用ができていないため、実績はない。